

農報

水稲



水稲営農情報



水稲
新木 真一
農畜産課 課長
0969-22-1105

①中干し後の水管理

中干し終了後（平年5月末日）から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。

穂肥の目安（出穂前25日前後…幼穂長1.0～1.5ミリ）稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	20kg	15kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板（カラスケール）を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

②穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけましょう。畦から1畝以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが1.0～1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

③病虫害防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。

果樹



5月の柑橘園管理



果樹
白石 一斗
上島営農指導センター
080-1729-1633

5月になりますと新梢も出揃い、いよいよ開花の時期となります。暖かい季節に入りますので、みかんの生育も日に日に進んでいきます。時期ごとにポイントとなる管理を記していますので園の状況をよく観察し、適期管理に努めましょう。

ましよう。また、展葉後は早期に緑化を促進させる為、マグネシウムの葉面散布を行いましょう。

1. 病虫害防除

時期	対象病虫害	薬剤名	希釈倍数	備考
上旬～中旬 (開花期間)	訪花害虫	モスピランSL液剤	4,000倍	
	灰色カビ病	ストロビードライフロアブル	2,000倍	
中旬～下旬 (開花盛期～落弁期)	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	混用
	灰色カビ病 そうか病 ホコリダニ	フロンサイドSC	2,000倍	

※養蜂が行われている地区では、周辺への飛散に注意して下さい。

※フロンサイドSCにかぶれやすい体質の方は、灰色カビ病の防除でファンタジスタ顆粒水和剤（3,000倍）を使用して下さい。

※花のバラつきがある場合は、ホコリダニの防除でアプロードエースフロアブル（1,000倍）を使用して下さい。

2. 葉面散布

発芽～開花期は前年の貯蔵養分で活動します。新梢の充実と養分補給の為、チッ素主体の葉面散布を行い

時期	薬剤名	希釈倍数	備考
新梢伸長期～開花期	尿素 アミノジューシー N14	500倍	樹勢維持
	神協スピリッツ	1,000倍	
	ジューシーカル	800倍	新梢充実
展葉期 (5月中旬頃)	葉面マグ	200倍	緑化促進

3. 着果対策（不知火、清見、中生・普通温州）

ジベレリンの散布・・・ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布をしましょう。下の表で規定濃度になりますので、満開から3～5日後辺りに散布を行って下さい。また、尿素を500倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期・・・満開から3～5日後

○ジベレリン希釈表（25ppm液を作る場合）

ジベレリン液剤 40mlの場合	水 8Lに1本
ジベレリン液剤 100mlの場合	水20Lに1本

4. せん定の実施（蕾が小豆～大豆大の頃）

冬期のせん定を控えていた所などでは、必要に応じて実施して下さい。特に樹冠内が込みあっている所では間引きを行い、樹冠内に光が入るようにしましょう。せん定量については、軽めにお願いします。



花卉



スリッパ (アザミウマ) について

花卉



竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリッパ (ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ) について紹介します。

ミカンキイロアザミウマ (主に花・蕾に寄生)
虫は体長1.0~1.7mm。黄色黒褐色。
ミナミキイロアザミウマ (主に葉に寄生)
成虫は体長1.3mm前後、全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

・生理生態

卵~成虫までの期間は10~20日
成虫の寿命は30~40日
成虫の1匹の雌は150~300個を産卵し、1ヶ月後に300倍に増殖します。
蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。
休眠しないので、施設内では冬でも発生します。
施設では2月下旬から増加し始め、5~6月に最も活発に活動し、初夏~初秋に大量に増加します。
成虫の飛翔能力は低く、自力で5m程度しか移動できません。

・被害の特徴

・新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

・展開葉に寄生した場合、加害部が白光ったように見え、周辺に小さく茶~黄色の虫が見られます。
・蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

・防除対策

耕種的防除

・施設内では、作付前に除草を行い、ハウスは閉め切り、次の作付けまで20日以上あけ、成虫を餓死させます。
・本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。
・株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうか確認します。
・黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意する。
・木酢液を噴霧することで、スリッパを忌避する効果があります。
・砂糖を200倍~500倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

薬剤防除

・薬剤防除については、スリッパの種類や薬害等がありますのでお近くの営農センターまでお問い合わせ下さい。

野菜



春インゲン今後の管理

野菜



小林 優介
上島営農指導センター
080-1729-1635

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってきます。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

温度管理

15~25℃で日中30℃以上にならないように注意してください。

灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせます。草勢を見ながら行き、後半は液肥で行います。

例) 穴肥

アサヒエース

液肥

トミー液肥ブラック等 (500倍)

葉面散布

メリット青 (500倍)

摘葉

摘葉は収穫を行いながら行き、老化葉・病葉・込み

合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病害虫の発生を抑制しましょう。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

病害虫防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、スリッパ等

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
プレオフロアブル	1000倍	収穫前日	2回	ハスモンヨトウ、ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
パダンSG水溶剤	1500倍	収穫前日	3回	マメハモグリバエ

灰色カビ病

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアーフロアブル20	1000~1500倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病